

中央教育審議会 大学分科会 教学マネジメント特別委員会 (第5回)

横浜国立大学 「授業設計と成績評価ガイドライン」について

2019年5月30日 (木)

高大接続・全学教育推進センター
安野 舞子

YNU 横浜国立大学
YOKOHAMA National University

www.ynu.ac.jp

May 28, 2019

横浜国立大学

設立：1949年5月

5学部 + 大学院

学生数：学部 約7,500名
大学院 約2,300名

教員数：約600名

教育学部	学校教育課程
経済学部	経済学科
経営学部	経営学科
理工学部	機械・材料・海洋系学科
	化学・生命系学科
	数物・電子情報系学科
都市科学部	都市社会共生学科
	建築学科
	都市基盤学科
	環境リスク共生学科
大学院	教育学研究科
	東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科
	国際社会科学府
	理工学府
	環境情報学府
	都市イノベーション学府

2014年度「大学教育再生加速プログラム（AP）」 テーマⅡ（学修成果の可視化）に採択

取組み概要：

我が国が目指す大学教育改革の方向性を参照しつつ、本学の大学憲章と教育目標を踏まえ、「授業設計方法と成績評価の改善」を大学教育改革の基盤と位置付け、学部教育の内部質保証システムを牽引していく両輪として「YNU学士力と就業力」の可視化、その原動力となる全学的な「YNU教学マネジメントチーム」の組織化に取り組む。可視化された教育成果を学生ポートフォリオに組み入れ、「学生自らが学修成果を把握し、次の学びを主体的にデザイン」できる行動様式に変容させ、「日本社会が直面する諸課題の解決に国際的視点から貢献するイノベティブな人材」の養成機能を抜本的に強化する。



本学のAP事業の概要

Phase 1 : 授業設計方法と成績評価の改善
(厳格な成績評価と卒業認定システム)

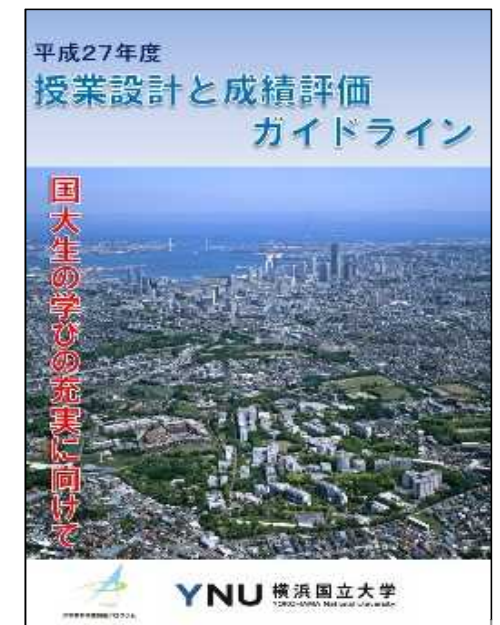
Phase 2 : YNU学士力の可視化
(教学・学生IRシステム拡充)

Phase 3 : YNU就業力の可視化
(キャリア教育の再体系化)

Phase 4 : YNU学生ポートフォリオ構築
(学生自らの主体的学びのデザイン)

「授業設計と成績評価ガイドライン」とは

- 授業改善PDCAサイクルの実質化と学生の「主体的な学び」の促進に向けて、2015年度に策定
- 「**成績評価の基準**」を全学で統一し、各教員が授業毎に「**授業別ルーブリック**」を作成することが主軸



「授業設計と成績評価ガイドライン」 導入の背景と経緯

横浜国大における成績評価の区分と基準：ガイドライン導入前

成績区分及び評価基準	評価点
秀 (単位を与える) 履修目標を十分達成しており、さらに履修目標を上回る成績をおさめていること (成績上位10%程度が秀になるように履修目標の水準を設定することが望ましい)	100-90点
優 (単位を与える) 履修目標を十分達成しており、「秀」につぐ優秀な成績をおさめていること	89-80点
良 (単位を与える) 履修目標に照らし優につぐ成績をおさめていること	79-70点
可 (単位を与える) 履修目標に照らし良につぐ成績をおさめていること	69-60点
不可 (単位を与えない) 履修目標に照らし、単位を与える水準に達していない	59-0点

ガイドライン導入の背景と経緯

【2012年度】

教務厚生部会で「秀率」「不可率」の高い科目が散見されることが問題点として指摘され、成績評価ガイドラインを検討するWGが発足

成績評価の基準にばらつきが認められる



教員の間で成績評価の統一した認識が必要である

ガイドライン導入の背景と経緯

【2013年度】

ガイドライン（たたき台）の策定と意見収集

- 成績評価ガイドラインの「たたき台」を策定し、各部局に提示して意見を収集。
→分かりやすく、より具体的なガイドラインの提示方法として、以下2点の導入が提案された。
 1. 成績評価基準表（全学で作成）
 2. 授業別ルーブリック（各教員が科目毎に作成）
- 授業設計の重要性を示すため、名称は「授業設計と成績評価のガイドライン」とした。

ガイドライン導入の背景と経緯

1. 成績評価基準表

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない

目的：「秀」～「可」の位置付けを明示し、
教員間の成績評価に対する統一した認識を得る。

ガイドライン導入の背景と経緯

2. 授業別ルーブリック

	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
評価項目 A	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文
評価項目 B	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文
評価項目 C	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文	評価基準の説明文

目的：授業の「評価項目」とその「評価基準」を明示し、担当教員と学生の授業内容と成績評価に対する認識を共通化する。

ガイドライン導入の背景と経緯

【2014年度】

ルーブリック説明会の実施

- 各学部教授会前に、「成績評価基準表」「授業別ルーブリック」の導入の背景と、各ルーブリックの目的について説明を行う。

【2015年度】

- 「授業設計と成績評価ガイドライン」の導入の決定。

授業設計と成績評価ガイドライン

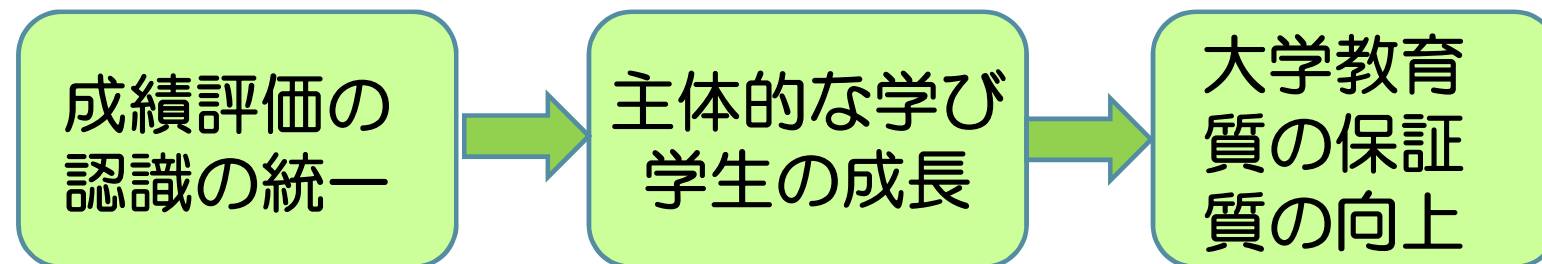
ガイドラインの要点

- 成績評価の基準の統一
到達目標と履修目標の設定
⇒教員間の認識の統一
- 授業別ルーブリックの導入
評価項目とその評価基準の明記
⇒教員と学生間の認識の統一

ガイドラインの内容（1 / 6）

序文

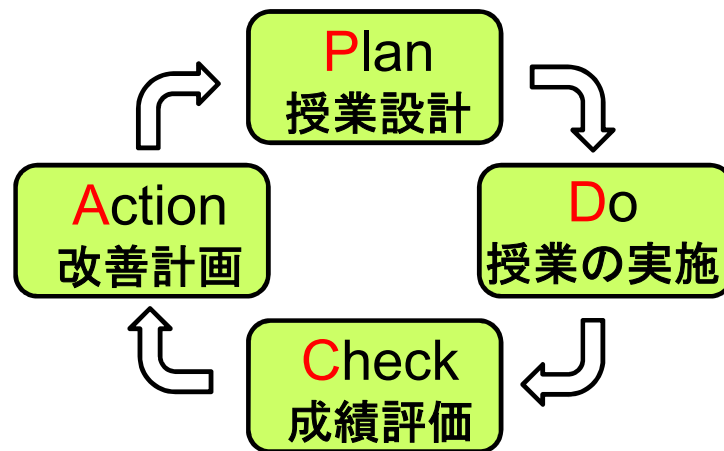
本学における**教育の質の保証と向上**を目指して、このガイドラインは設定されました。ループリックを用いて、教員および学生の**成績評価に対する認識を統一**し、各授業における目標と成績評価の関係を明示します。ガイドラインに従った授業設計と成績評価を行うことで、学生の**主体的な学び**が促進され、優秀な**学生が成長**することを期待しています。



ガイドラインの内容（2/6）

授業改善のPDCAサイクル

I. **授業設計**の時に授業の目標ならびに授業時間外の学修内容を設定し、シラバスに記述して下さい。**授業を実施**し、設計時に定めた目標に従った**成績評価**を行って下さい。その結果として成績分布に偏りが出たら、次年度の授業に向けて**改善**を行って下さい。PDCAサイクルを繰り返すことで質の高い授業へと改善して下さい。



PDCAサイクルを
毎年繰り返すこと
で質の高い授業へ

ガイドラインの内容（3/6）

成績評価の基準の統一

Ⅱ. 授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標を「**履修目標**」とし、達成していれば成績評価は「優」以上として下さい。授業において最低限学生が身につける内容を示す目標を「**到達目標**」とし、達成していれば成績評価は「可」以上として下さい。

秀	優	良	可	不可
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標 をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標 を達成している	到達目標を達成できていない

履修目標：授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標（「優」のレベル）

到達目標：授業において最低限学生が身につける内容を示す目標（「可」のレベル）

横浜国大における成績評価の区分と基準：ガイドライン導入後

秀	優	良	可	不可
100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点～0点
履修目標を越えたレベルを達成している	履修目標を達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成できていない
単位を与える				単位を与えない



※ガイドラインにおける授業改善の考え方

- 授業設計時（＝シラバス作成時）に、履修目標・到達目標の設定を通して授業内容のレベル・成績評価の基準を設定することが重要。
- 授業設計時に定めた目標・基準に従って成績評価を行った結果、成績分布に偏りが出たら、（その時に分布の調整をするのではなく）次の授業で改善する。
 - 例：「秀」が多かった場合は、履修目標を上げる（授業内容の高度化）。
 - 「不可」が多かった場合は、到達目標は変えずに、そういった学生層の理解が深まるような授業内容を検討する。

PDCAサイクルを繰り返すことで、質の高い授業へと改善していく。

ガイドラインの内容（4/6）

授業別ルーブリック

Ⅲ. **授業別ルーブリック**とは、どのような観点で成績評価を行うかという「**評価項目**」とそれぞれの評価項目に対する到達度を表わす「**評価基準**」を表形式で示しています。授業別ルーブリックを学期前に明示して、授業別ルーブリックに従って成績評価を行って下さい。

	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
評価項目A		履修目標		到達目標	
評価項目B					
評価項目C					

※授業で設定した「到達目標」と「履修目標」を基に作成する

ガイドラインの内容（5/6）（6/6）

教員間協議の励行

V. 同一科目を複数教員が異なるクラスを担当する科目や一つの科目を複数の教員で担当するオムニバス形式科目は、担当教員で協議して授業の目標と成績評価の基準の設定を行って下さい。

除外科目

VI. 能力別編成クラスの科目や受講生が少人数の科目は、担当教員の判断により、当ガイドラインを柔軟に適用して下さい。

成績評価基準表・授業別ルーブリックのまとめ

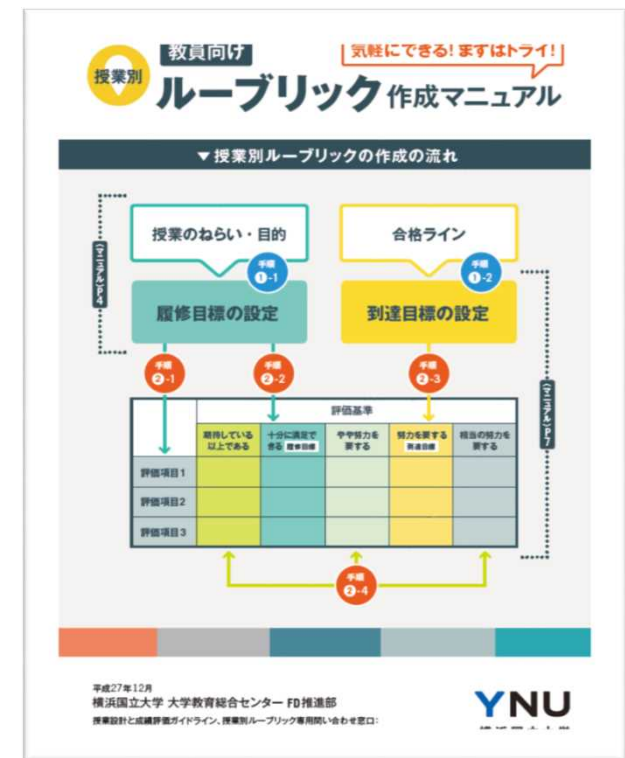
名称	内容	目的	ねらい
成績評価基準表 (全学統一)	「秀」「優」「良」「可」「不可」と到達目標や履修目標との関係を示す。	教員間のグレードの認識を統一することを目的とする。	GPAの質保証に繋がる。学生が「秀」の水準を認識し、自発的な学修を促す効果がある。
授業別ルーブリック (各教員が作成)	各授業で設定した評価基準(項目)に対して、それぞれの評価基準(水準)を示す。評価基準は到達目標と履修目標が含まれる。	教員と学生の授業内容に対する認識を共通化することを目的とする。	学生が授業で履修する項目と水準を認識することができ、授業に適した自発的な学修を促す効果がある。

ガイドラインの運用状況

ガイドラインの運用状況

【2015年度】

- 2016年度履修案内等に「成績評価の基準表」とその説明文を記載する（全学）
 - 2016年度開講科目の授業設計（＝シラバス入力）をガイドラインに沿って行う（個々の教員）
- ※ 「ルーブリック作成マニュアル」と「コモンルーブリック」を提示



科目の形態を踏まえたサンプルのルーブリック (=コモンルーブリック)

⇒シラバス作成画面からコピー&ペーストで利用可

- ① 講義用 (知識伝達型の授業)
- ② 演習用 (与えられた問題を解き、プレゼンやレポートで説明する授業)
- ③ 実験用 (手順に従った実験を行い、現象の考察をレポートする授業)
- ④ 調査研究用 (個別テーマが与えられる卒業論文や卒業研究)
- ⑤ レポート採点用
- ⑥ コメントシート／振り返りシート／大福帳用

ガイドラインの運用状況

【2016年度】（導入年度）

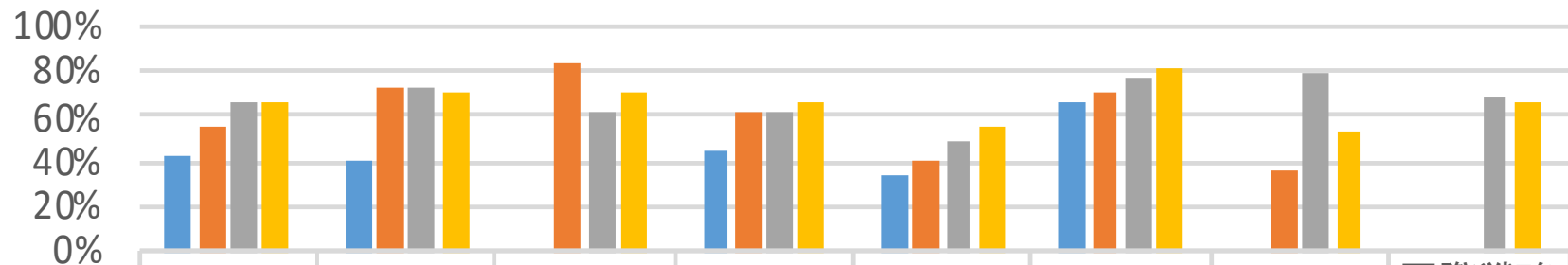
- ガイドラインに沿って作成したシラバスを基に成績の評価づけを開始（個々の教員）
- 各部局の教授会等の前に「FDセミナー」を実施。センターの教員が各部局の教員に直接、ガイドラインの概要や授業別ルーブリックの作成と活用方法を説明。

【2017年度以降】

- 授業別ルーブリック作成状況の把握と成績分布変化の分析を行う。

授業別ルーブリックの作成状況

授業別ルーブリック作成率の推移



	全体	全学教育	教育	経済	経営	理工	都市科学	国際戦略 推進機構
■ 2016年度	42.4%	39.9%		45.1%	33.6%	65.6%		
■ 2017年度	56.1%	72.6%	84.3%	62.2%	39.5%	70.4%	36.8%	
■ 2018年度	66.4%	72.3%	61.6%	62.2%	49.3%	77.7%	78.9%	68.2%
■ 2019年度	66.0%	70.4%	70.2%	65.5%	55.6%	80.5%	52.9%	67.1%

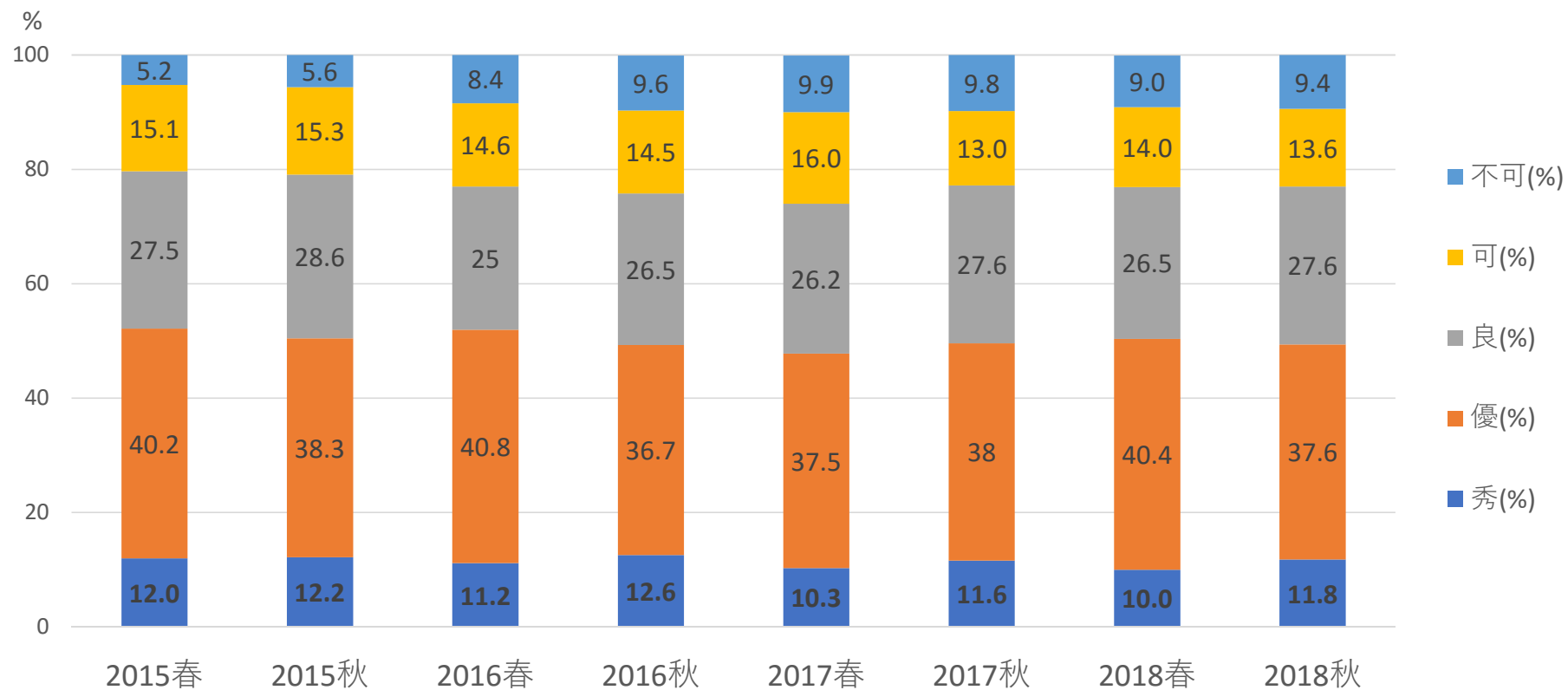
■ 2016年度 ■ 2017年度 ■ 2018年度 ■ 2019年度

実際に作成されている授業別ループリック例

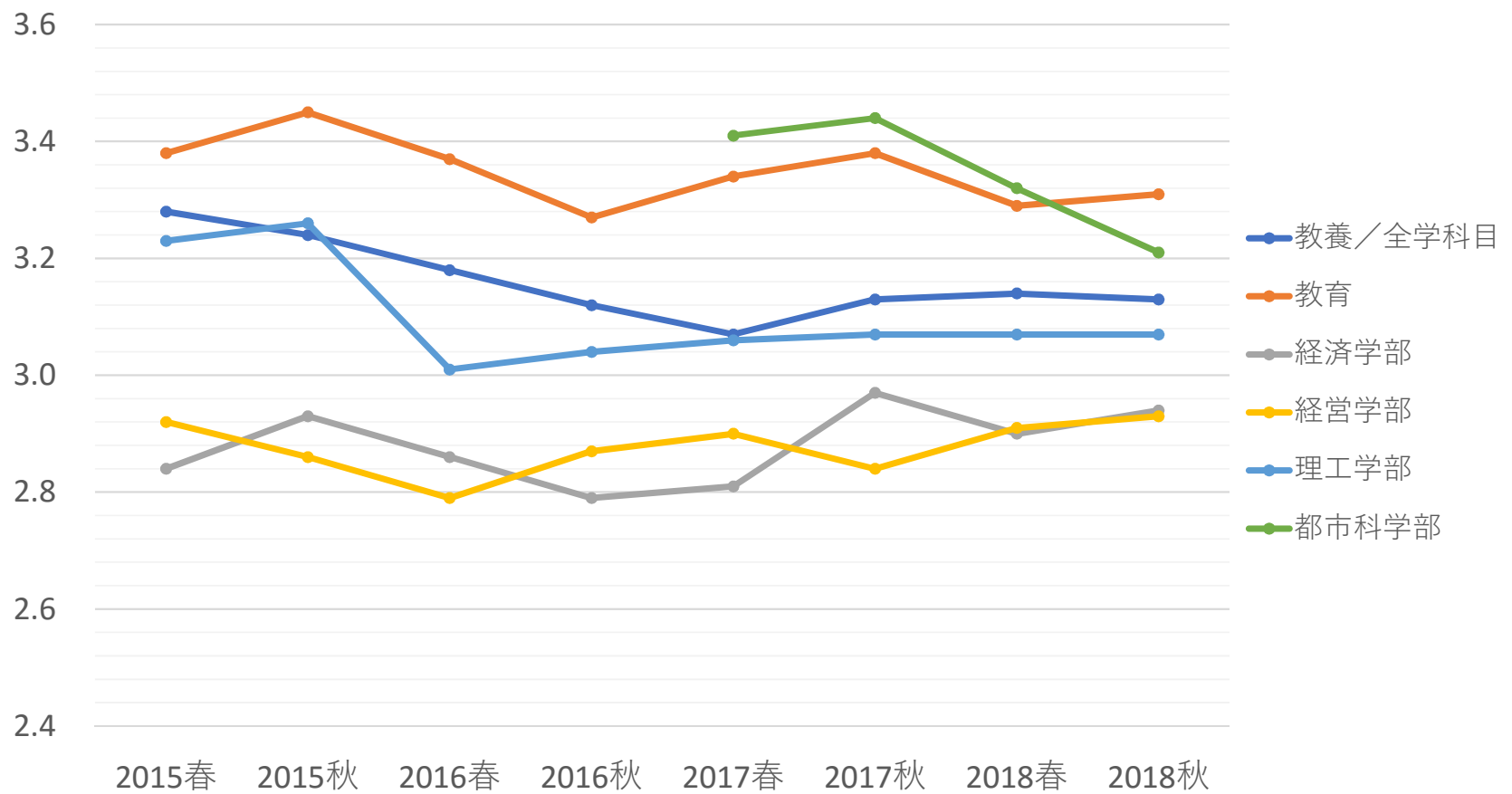
別添資料1

ガイドライン導入後の各種検証

成績評価分布の経年変化：全学教育科目 2015年度～2018年度



開講学部別G Pの平均値推移



※本学のGPA制度について

- GPA制度の導入は2003年度入学生から

- GPA計算式

$$\text{GPA} = \frac{\sum (\text{GP} \times \text{単位数})}{\text{履修登録総単位数}}$$

※再履修は除く

- 成績評語・評価点・GPとの関係

評価	評価点	GP
秀	100-90点	4.5
優	89-80点	4
良	79-70点	3
可	69-60点	2
不可	59点以下	0

(2007年度入学生から適用)

※本学のGPA制度について

● GPAの活用事例

- 卒業要件（全学共通。2.0以上）
- CAP緩和の基準（一部の学部）
- 成績不振学生基準（学部により基準値は異なる）
- 早期卒業要件（一部の学部）
- 卒論着手要件（一部の学部）
- 交換留学派遣学生基準（学部により基準値は異なる）
- 授業料免除、徴収猶予
- 学生表彰
- 学業優秀者表彰

※本学のGPA制度について

- GPAの公表状況

学生に対して「学生ポートフォリオ」上で公開
(所属学部内のGPA分布グラフと自分の位置の表示)

※別添資料2

ご清聴、ありがとうございました。

本件に関するお問い合わせ：
高大接続・全学教育推進センター 安野
yasuno-maiko-cb@ynu.ac.jp

【授業別ルーブリック実例 1】

■ 科目名：情報システム論

- 授業の目的：社会、企業組織、個人の活動に必要な情報の収集、蓄積、処理、伝達、利用に関わる一連の仕組み（情報システム）が、現代社会やビジネスにおける問題解決や価値創造という文脈において持つ意味を理解し、情報システムの企画、設計、構築、実施、運用における望ましい働きかけに関して、社会的組織的文脈や倫理的課題事項を踏まえた現実的提案を行うための分析視点を身につけることを目的とする。

■ 履修目標

- （情報システム概念の理解）情報システムの考え方をシステム概念や経営学や情報学の概念を用いて他者に説明できる。
- （情報システム問題定式化）情報システムに関わる様々な問題を、適切な枠組みや記法を用いて記述・モデル化できる。
- （情報システムの意味づけ）現代社会やビジネスにおける情報システムの意味を、多様な角度から見出すことができる。
- （情報システム活動の視点）情報システムの一連の活動に対する各々の分析視点を状況に応じて適応することができる。

■ 到達目標

- （情報システム概念の理解）情報システム概念を参照学問分野の概念を用いて述べることができる。
- （情報システム問題定式化）情報システムに関わる問題を、適切な枠組みや記法を用いて記述できる。
- （情報システムの意味づけ）情報システムの意味を、多様な角度から見出すことができる。
- （情報システム活動の視点）情報システムの一連の活動に対する分析視点を述べることができる。

■ 授業別ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる (履修目標)	やや努力を要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を要する
情報システム概念の理解	情報システムの概念と固有の見方を参照学問との関係とともに理論立てて他者に説明できる。	情報システム概念を参照学問分野の概念を用いて理論立てて他者に説明できる。	情報システム概念を参照学問分野の概念を用いてある程度理論立てて他者に説明できる。	情報システム概念を参照学問分野の概念を用いて述べることができる。	情報システム概念を参照学問分野の概念を用いて述べることができない。
情報システム問題定式化	情報システムに関わる問題を、適切な枠組みや記法を用いて目的に適う水準で記述・モデル化できる。	情報システムに関わる問題を、適切な枠組みや記法を用いて議論ができる水準で記述・モデル化できる。	情報システムに関わる問題を、適切な枠組みや記法を用いてある程度、記述・モデル化できる。	情報システムに関わる問題を、適切な枠組みや記法を用いて記述できる。	情報システムに関わる問題を、適切な枠組みや記法を用いて記述することができない。
情報システムの意味づけ	情報システムの意味を、関連学問分野への参照とともに理論立てて他者に説明することができる。	情報システムの意味を、多様な角度から見出し、理論立てて他者に説明することができる。	情報システムの意味を、多様な角度から見出し、他者に説明することができる。	情報システムの意味を、多様な角度から見出すことができる。	情報システムの意味を、多様な角度から見出すことができない。
情報システム活動の視点	情報システムの一連の活動に対する分析視点を状況に応じて適切に適用することができる。	情報システムの一連の活動に対する分析視点を状況に応じて適用することができる。	情報システムの一連の活動に対する分析視点を述べることができ、ある程度、適用することができる。	情報システムの一連の活動に対する分析視点を述べることができる。	情報システムの一連の活動に対する分析視点を理解できていない。

※担当教員のルーブリック活用法：学生に授業全体を振り返らせる際に、ルーブリックに基づいて自己評価してもらう。こうすることで、授業の目的に照らして、自分の知識やスキルについて、その成長や不足を自覚してもらい、以降の学修の動機づけにすることができる。

【授業別ルーブリック実例 2】

■ 科目名：数学・力学演習

■ 授業の目的：本演習では、1年次に履修した数学および力学の範囲の中から特に海洋工学の専門科目の修得に必要な範囲に関して演習を行う。使用する例題は専門科目の範囲から多く引用し、数学・力学を解析手段として応用できる能力を育成する。授業時間内の演習で受講者同士による解法の議論を重視する。

■ 履修目標

- ・大学初年度に学ぶ偏微分、多重積分を用いて、専門分野の応用問題の解法を説明することができる。
- ・大学初年度に学ぶ剛体の力学を用いて、専門分野の応用問題の解法を説明することができる。

■ 到達目標

- ・大学初年度に学ぶ偏微分、多重積分を用いて、専門分野の応用問題を解くことができる。
- ・大学初年度に学ぶ剛体の力学を用いて、専門分野の応用問題を解くことができる。

■ 授業別ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる (履修目標)	やや努力を要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を要する
課題を解く力	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても課題を自発的に解くことができない。
解法を口頭で説明する力(プレゼン内容)	聴衆を引きつける説明ができる。	聴衆の理解を助ける説明ができる。	板書内容を補足する説明ができる。	板書内容を正しく説明することができる。	板書内容を正しく説明できない。
解法を文書で説明する力	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	必要な式は書くことができる。	必要な式が欠落している内容である。

※担当教員のルーブリック活用法：ルーブリックと成績評価の方法と授業の方法が連動した授業としている。(1) 授業時間内演習とレポート、(2) 小テスト、(3) 期末試験の3種類の授業方法があるが、(1)は到達目標の「他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる」、(2)は「参考書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる」、(3)が履修目標の「何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる」に対応させている。そして、(1)は60点、(2)は20点、(3)は20点の配分点を設定している。

【授業別ルーブリック実例3】

■ 科目名：初等国語科教育法

■ 授業の目的：本授業では、小学校における国語科の位置づけおよびその特質を理解したうえで、国語科の授業づくりのための基本的な視点（教材研究および指導計画づくりのための視点）に基づき、実際に授業を計画し実践するための初歩的なスキルを身につけることを目的とする。

■ 履修目標

この授業のねらいは以下に示す履修目標を達成することである。

- ①国語科における各領域の指導事項を理解し、授業の中でどのような指導を行えば良いかをイメージすることができる。
- ②国語科の授業をめぐるディスカッションに積極的に貢献し、生産的・創造的な議論を行うことができる。
- ③マイクロティーチングにおける自分の責任と役割を理解し、自分自身の責任をまっとうすることができる。

■ 到達目標

この授業の合格ラインは以下に示す到達目標を達成することである。

- ①国語科の授業について、自分なりのイメージを持つことができる。
- ②国語科の授業をめぐる問題について自分なりの意見を持ち、発言することができる。
- ③他者との共同作業における自分自身の役割と責任を理解し、自分の責任をまっとうすることができる。

■ 授業別ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる (履修目標)	やや努力を要する	努力を要する (到達目標)	相当の努力を要する
指導・学習内容の理解度 (期末レポート)	国語科の目標および各領域・事項の指導事項を自分なりに分析・解釈し、独創性の高い授業づくりのありかたについて説明できる。	国語科の目標および各領域・事項の指導事項を踏まえ、それぞれの領域の授業でどのような授業づくりを行えば良いかを説明できる。	国語科の目標および領域・事項については理解しているが、それぞれの指導事項を踏めてどのような授業づくりを行うべきかを説明できない。	国語科全体の目標や領域構成について述べるができる。国語科の領域・事項の内容を類別することができる。	国語科全体の目標や領域構成について述べるができる。国語科の領域・事項の内容を類別することができる。
授業づくりのために必要な知識・技能 (模擬授業)	指導と評価が一貫した指導計画・評価計画を作成することができる。かつ、「学習の効果を高めること」「学習を楽しむものとする」「教材・教具を工夫すること」のいずれかにおいて自分なりに工夫した授業を行うことができる。	指導計画および評価計画を立案することができ、かつ、「学習の効果を高めること」「学習を楽しむものとする」「教材・教具を工夫すること」のうちいずれかにおいて自分なりに工夫した授業を行うことができる。	指導計画および評価計画を立案することができているが、「学習の効果を高めること」「学習を楽しむものとする」「教材・教具を工夫すること」のいずれにおいても工夫を行うことができていない。	指導計画・評価計画のいずれか一方の理解が不十分であり、十分な内容を踏まえた指導計画・評価計画が立案できていない。	指導計画・評価計画の双方における理解が不十分であり、自分ひとりで、指導計画・評価計画が立案できない。
グループワーク能力 (態度)	マイクロティーチングにおける自分の役割と責任を理解し、グループワークにおいて積極的にリーダーシップをとることができる。あるいは、グループ内の現状把握につとめ、積極的にメンターとしての役割を果たすことができる。	マイクロティーチングにおける自分の役割と責任を理解し、自分自身の責任をまっとうし、グループに寄与することができる。	自分自身に与えられた役割の範囲でグループでの活動に参加できるが、グループワーク全体の中での自らの責任を果たすことができず、グループに寄与できない。	グループ内で与えられた役割を理解し、マイクロティーチングに向けてグループでの活動に参加することができる。	グループ内で与えられた役割を理解し、マイクロティーチングに向けてグループでの活動に参加することができる。

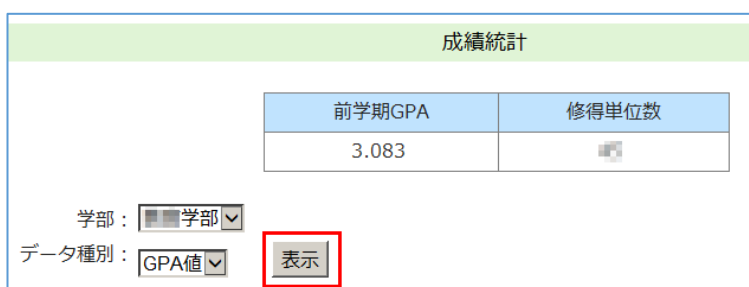
※担当教員のルーブリック活用法：「初等国語科教育法」では、児童作品をもとに、学生たちに評価ルーブリックを作成するというワークショップ型の活動を行っている。教育学部の学生だからこそ、最終的には、自らルーブリックを作成できるように促していく必要がある。そのような意味で、自分たちが評価される際に用いられるルーブリックと、自分たちが今後作成できるようになるべくルーブリックを連動させるような、作文・レポートを軸としたルーブリックの作成は意味があると考える。

GPA の公表：学生に対して「学生ポートフォリオ」上で公開

トップページ>履修・成績情報>成績統計



前学期までの通算 GPA・修得単位数の下にある「表示」ボタンをクリック



所属学部内の GPA 分布グラフと自身の位置（赤色）が表示される

